

平成27年度後学期 学生による授業評価アンケート  
**「アンケート結果に答えて」**

|  |            |       |      |         |     |
|--|------------|-------|------|---------|-----|
| 所属部局   | 人文社会科学部    |       | 氏名   | 今村 直樹   |     |
| 講義コード  | 2412121010 |       | 講義名  | 日本近世地域史 |     |
| 開講曜日・時限  | 火曜日        | 3・4時限 | 専門科目 |         |     |
| 授業回数   | 15回        | 休講回数  | 1回   | 補講回数    | 回   |
|  |            |       |      | 受講登録者   | 72人 |
| <p>成績評価に際し注意した事項<br/> シラバスに明示したとおり、コメントペーパー（30%）・小レポート（20%）・学期末試験（50%）を総合して、成績評価を行った。</p> <p>授業アンケートに対する回答：<br/> 受講生72名のうち、回答者は52名であり、回答率は72.2%であった。<br/> 数値的にみると、設問群の個人平均が4.36（設問04-12）、4.52（設問13-15）であり、一昨年・昨年度に比べると評価が下がっている。設問のなかで、とくに個人平均が高かったのは、設問4（授業の内容を分かりやすく説明する努力をしていた）の4.65、設問5（教員は学生の反応を確かめながら授業を行う努力をしていた）の4.63、設問8（コメントペーパー、メール、電子掲示板等が活用されていた）の4.54、設問15（総合的に判断して、この授業は満足であった）の4.58である。以上の点は概ね高評価だと思われるので、来年度以降も継続することができるように心がけたい。<br/> 一方、数値が低かったのは、設問2（授業のために、授業外の学習をおこなった）の2.73、設問3（授業の内容を、主体的に学ぶことができた）の3.50、設問12（この授業を受けたことによって、さらに当該・周辺分野を学んでみようと思った）の3.81である。とくに、設問2が分野平均を下回っていること、そして設問12から分かるように、日本近世史・近代史の学問的魅力を十分に伝えられなかったことは、私にとって大きな反省点である。<br/> 以上の点から、授業における学生との双方向的なやりとりに関しては一定の評価がなされたが、授業自体の内容や運営方法など、少なくない課題が残ったとみるべきだろう。授業の内容では、「日本近世地域史」という講義の性格から、近世・近代における九州・静岡両地域の歴史を重点的に取り扱った。しかし、九州の事例に関する説明が長くなったためか、「もっと静岡の歴史を多く話してほしい」という意見があった。単なる九州の事例研究ではなく、日本近世史・近代史の広い視野のもとに講義を行ったつもりだが、この点は反省しなければなるまい（だからと言って、静岡の事例だけを解説すれば良いとは思わないが）。<br/> 次に運営方法で思い当たるのが、学生間での話し合い（グループ・ディスカッション）などの時間の不足である。教員―学生間の双方向性については一定の達成をみたが、私からの問いかけに対し学生たちが相互でじっくりと考える時間は少なく、その点で一方的な講義になっていたのではなからうか。実際、受講生の意見にはディスカッションの時間の確保を求めるものもあった。</p> <p>次期授業に向けての抱負：<br/> 授業アンケートを数値的にみると、ほとんどが分野平均を上回っており、その点では今年度も概ね高い評価をいただいたと思う。しかし上記したように、個人的には多くの課題を認識することができた。学生たちの知的関心と学習意欲を喚起させる授業。これを目標に、次回の授業改善に向けた努力を続けていきたい。</p> |            |       |      |         |     |
| コメントペーパー等（掲示板、メールなど）の利用状況：   |            | 13回   |      |         |     |